［シンポジウム 3］

明治期における私立医学校の医学教育

志村　俊郎
日本医科大学 教育推進室 医史学教育研究会

明治期の医学校は，明治12年度医学校一覧によると，帝国大学，官立，公立の甲種医学校を含み，大小の48校が登録されている．その内15校は，教員が1名のまさしく塾であった医学校から外国人の教員も擁した6校までばらばらで医学教育における混乱期であった．これらの内，私立医学校の設立は，明治9年創立の済生学舎とほぼ時を同じく施行された医術開業試験の影響もあると思われる．

明治7年以後の私立医学校を，東京府学務課明治16年学事年報を参考に，名称，創立年，年数，教員，生徒，括弧内に設立者と共に当時の判明事項のみ列記する．①修文舎，明治8年，3年，1名（田代基徳），②東亜医学校，明治15年，3年，25名，男428　女6（小川恒），③東京医学院，明治24年，22名，212，④明治9年創立年時の済生学舎は，3年，20名，484（長谷川泰）で，明治24年，25名，611，明治32年，25名，男750　女52と記載され女子学生の入学が増加している．⑤東京慈恵院医学校（成医会講習所）は，明治14年，16名，143（高木兼寛）で，明治32年，20名，208と記載されていた．

済生学舎と成医会講習所を除くこれらの私立医学校の多くは，明治中期までに多く廃校となった．以下，これらの厳しい状況の中で存続していった私立医学校の済生学舎，慶應義塾医学所，成医会講習所の医学教育について述べる．済生学舎の前身は，明治6年佐藤尚中により第一大学区医学校を追われた医学生救済策として作られた医学校「済衆舎」である．済衆舎は，修業年限二年半とし，病床実習は順天堂医院を使用した．済衆舎は，三年後に佐藤尚中の急病により廃校となった．済生学舎は，新たに佐藤尚中の依頼を受け，本郷元町1丁目に開校された．長谷川泰は，東京府知事楠本正隆宛に私立学校願を明治8年12月に提出し開学許可が出された．教科書は，長谷川泰がニーマイエル，ザイツの内科書を完訳した「内科要略」で初期に講義を始めた．開校時の済生学舎の学則は5項目であったが，学生数も増加し明治10年7月には学則改正を行っている．明治15年に学校を湯島4丁目に移転し，明治17年に東京医学専門学校・済生学舎と称し東京府知事と文部省に届出ている．明治20年3月文部大臣森有礼により文部省令第五号による官立府県学校と同等であるかどうかを認定する為の特別認可学校書類を提出している．明治36年に専門学校令（勅令第61号）発布の後突然の廃校宣言が出され，その10日後には同窓医学講習会が開催され講義が再開された．その後私立日本医学校と東京医学校の合併を経て，大正8年文部省指定日本医学専門学校として再興された．

慶応義塾医学所は，明治6年10月に福沢諭吉は高弟の松山棟庵と協議の上，慶応義塾の一分科として，松山棟庵の自由裁量の下で医学科を設けた，修業年限は2カ年で主としてハルツホルンの教科書を用いた．医学所は7年間続き三百余名の卒業生を出したが，明治13年慶応義塾本校の経営が悪化し廃校となった．その後大正5年12月，北里柴三郎により今日の慶応大学医学部が誕生した．

成医会講習所は，高木兼寛により留学先のセント・トーマス病院医学校の様式を取り入れて造られた大学および附属病院である．そして皇室と密接な関係のある貧民救済の慈善病院である慈恵医院を造った．高木兼寛は，明治14年5月成医会講習所を京橋区槍屋町の東京医学社の一室を借りて開校した．次いで天光院に一時移転し，明治15年11月から明治24年1月まで海軍医務学舎（軍医学校）と同居した．講義は主に海軍軍医が行った．修業年限は，最初は3年で，後に4年制の定期生と随意生（期外生）の二種であり，英語による教育と実地の医学を校是とした．明治24年4月に海軍軍医学校と別れ独立し，明治36年に私立東京慈恵医院医学専門学校に昇格した．

まとめ

民衆のための医療を支えた明治期の私立医学校の様々な設立の経緯とその教育内容を報告する．